

●一般選抜(制限時間 60 分)—————《傾向と対策例》

問題構成 (すべて記号選択式、小問数は全体で 25~35、100 点満点*)

大問	小問**	ジャンル	設問内容・傾向	対策例
I 国 語 常 識	問 1	漢字 熟語	日常生活でよく使われている漢字や熟語の読み書き(常用漢字に限る)や意味などを問う。→出題例 1	授業で学習した漢字・熟語・故事成語などを整理しておく(大学入試用の初級問題集などで)。普段から知らない漢字、意味のわからない熟語を調べる習慣をつける。
	問 2	慣用句 故事成語 カタカナ語	新聞、テレビ、書籍などでよく使われている有名な慣用句や故事成語、カタカナ語などを問う。→出題例 2	
	問 3	文法 語法 表現技法	高校までに学習してきた国文法の基礎知識(日本語常識)を問う。→出題例 3	授業で学習した国文法の知識を「国語便覧」などで整理しておく。また、敬語の種類や用法、比喻表現(直喩・暗喩・擬人法)、手紙文などに関する基礎知識を身につけておく。
	問 4	文学史 敬語 手紙文	授業で学習してきた文学史や敬語など、高校卒業時までに習得しておきたい国語常識を問う。→出題例 4	
II 長 文 読 解	5~8 問	評論 エッセイ 随筆*** (3000~ 4500 字)	<ul style="list-style-type: none"> ・空欄補充(語い) ・文章や段落の接続関係 ・傍線部の解釈 ・文章構成※ ・表現方法※ ・筆者の主張 ・全体の趣旨 <p>※素材となる文章によっては出題されない。</p>	出題傾向は「大学入学共通テスト」にほぼ準じる(難易度は大学入試の基本レベル)。現代文が苦手な人は、基礎レベルの読解用参考書を1冊仕上げから、共通テスト過去問を2~3年分解いておく。現代文が得意な人も、共通テスト過去問を解いて長文読解に慣れておくとよい。

*大問 I と大問 II の配点比率は、1:1 もしくは 2:3 (難易度に応じて配分)。

** I の各小問は、それぞれ 4~6 の枝問で構成される。II の小問は、文章を正しく読解・解釈できているかどうかを、主に正誤問題形式で問う。

***近代以降の文章(小説文は出題しない)。

別掲資料

(注) 解答は適切な選択肢記号を選んで解答用紙に記入(1つまたは複数)。

【出題例1】 ^A凡例とは、書物の ^Bカ|ン頭などで編集方針や使用法などを記したものである。

【正解】 A はんれい B 巻

【出題例2】 弟は絵が上手ではないと思われるが、() 県の絵画コンクールで入賞する実力を有する。

【正解】 曲がりなりにも

【出題例3】 次の文で使われている表現技法として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選びなさい。

やがて彼は泥のように眠った。

【正解】 直喩(明喩)

【出題例4】 次の文章は、平安時代の文芸について述べたものである。空欄(A)に該当する作品名と(B)に該当する作者名の組み合わせを、あとのア～カから一つ選びなさい。

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」の書き出しで知られる(A)は、一条天皇の中宮定子の寵愛ちようあいを受けた(B)の作品である。

【正解】 A 『枕草子』 B 清少納言